

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101943		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協グループホームしまど		
所在地	山口県下関市豊北町大字神田4611-2		
自己評価作成日	平成28年8月28日	評価結果市町受理日	平成29年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな静かな環境の中で、近所の方から新鮮な魚や野菜の差し入れがあり、地域の一員として受け入れられて生活しています。月に1度の”タマちゃん喫茶”、ハーモニカや草刈りのボランティア、お泊りボランティア等、地域の方々のたくさんの御協力に支えられています。猫の”タマちゃん”が開所以来同居していて、利用者と職員の心を和ませてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入され、職員は年5回の地域の清掃作業に参加され、利用者は神社の祭りやお薬師様、文化祭、月1回開催される「木目込み教室」に職員と一緒に参加しておられます。事業所では地域向けの事業所便りを年4回、各班に配布して事業所の活動を知らせておられる他、事業所主催の秋祭りや「タマちゃん喫茶」には地域の人が多く参加されて、利用者と交流しておられます。運営推進会議には地域の人が多くメンバーとして参加しておられ、夜勤者の安心のためのお泊りボランティアや環境整備のための事業所内の草刈、災害時の避難訓練の協力など、利用者や職員の安心安全な暮らしを支えるための協力を得ておられます。外部評価結果を受けて、地域特有の害虫による咬傷の対処方法を含めた「初期対応マニュアル」を作成しておられます。管理者と職員は理念を踏まえて常に笑顔を決やさず、明るく対応して利用者の安心感を得ておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、理念に沿ったケアができるよう心掛けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。毎朝唱和し、ケース検討時に理念に添ったケアとなっているかを全職員で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域版のホーム便りを回覧している。地域の作業や地域の祭りにも参加している。また、地域の方から魚や野菜の差し入れもある。	自治会に加入し、職員は年5回ある清掃作業（草刈、溝掃除、缶拾いなど）に参加している。利用者は春秋の神社の祭りやお薬師様、文化祭、地域のJA女性部で月1回開催している「木目込み教室」に職員と一緒に参加している。事業所主催の秋祭りには地域から80人近くの参加があり、銭太鼓や大正琴の演奏、カラオケなどで地域の人と交流している。他、月1回開催している「タマちゃん喫茶」に来訪している人と交流している。ボランティア（ハーモニカ演奏、生け花、草刈、草取り、お泊り）や保育園児の来訪があり、交流している。利用者は散歩や買物時、郵便局の利用時に会える地域の人と挨拶を交わし、近所から魚や野菜の差し入れがあるなど日常的に交流している。中学生、高校生の職場訪問を受け入れている。地域版の「事業所便り」を年4回、各班に回覧し、活動内容を周知している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や事業所主催の秋祭り、月1回の喫茶、お泊りボランティア等で、利用者さんと一緒に過ごしていただくことで理解を深めていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員が自己評価に取り組み、内部研修で意義を理解している。また、評価結果をふまえた改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について職員に説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布して記入してもらい、内容について話し合い、まとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りや見直しと捉えている。外部評価結果を受けて、応急手当や初期対応マニュアルを作成するなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現況報告や緊急時の連絡網や対策について等話し合っている。外部評価についても結果を報告している。	会議は併設のデイサービスセンターと合同で年6回開催している。事業所の現況（入居者の状況や行事内容）やボランティア活動、外部評価結果等を報告した後、話し合いをしている。食事会や避難訓練と併せて実施したり、施設見学研修を年1回採り入れるなどの工夫をしている。参加メンバーは地域からの参加者が多く、事業所行事や環境整備への地域からの協力に関する意見や家族会からの草取りへの協力の申し出があるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。今年度から家族全員に運営推進会議開催の案内を通知している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加だけでなく、随時、連絡・相談をし情報交換をしている。また、内部研修の講師を依頼する等、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出かけるなどして、情報交換や市のサービス内容、法解釈の不明点等について相談を行い、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話、直接出向くなどして情報交換や事例相談、内部研修（成年後見制度）の講師を依頼するなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみを原則とし、身体拘束をしないケアをするため内部研修で学び、ケア会議で話し合っている。GH内、居室内を自由に行動できるよう転倒防止を考慮しながら、椅子やソファを配置している。	全職員は「身体拘束排除に関するマニュアル」に基づき、内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者があれば一緒に出かけるなど、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては気がついた場合は管理者による指導や職員間でお互いに注意し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部での研修で学ぶ機会を持ち、職員同士がお互い意識し合い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用されている利用者さんもおられ、成年後見制度について内部研修で学び、職員全員が理解に努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際には、家族に十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時、また電話等で意見や要望を聴き、気づき箱も設置している。苦情の受付や処理手続きは、速やかに行われるよう体制を整えている。	重要事項説明書の中に相談、苦情の相談窓口や受付担当者、第三者委員を明示して契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議時、事業参加時、年3回の家族会時、年1回の個別面談時、電話等で家族の意見を聞いている。気づき箱を設置している。年4回、家族宛に利用者の活動写真入りの事業所便りを送付して、意見が言いやすいように工夫している。家族からは利用者の状態や終末期ケアについての相談の他、行事への参加希望等があり、年間行事案内に加えて、運営推進会議開催を全家族に通知している他、終末期ケアを実施するにあたっての体制の検討をしているなど、意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議やミーティング時、日常業務の中でも職員の意見や提案は聞くようにしている。法人で年一回、自己申告書を記入する機会がある。	管理者は月1回あるケア会議や毎朝のミーティング時、日常の係り業務(広報、行事、清潔、在庫管理、掃除等)の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、いつでも意見が言いやすいように雰囲気づくりに努めている。法人で年1回、自己申告書の提出があり、職場環境や処遇等についての意見や提案を聞いている。職員からは害虫の駆除対策や入浴時のシャワーキャリーの購入などの意見があり、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備が少しずつだが改善しつつあるが、まだ整っているとはいえない。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、勤務の一環として交代で参加している。研修後は、復命をし職員全員で共有できるようにしている。内部研修は、月一回開催し、なるべく全職員が参加できるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を提出し、回覧後ケア会議で報告し、資料はいつでも閲覧できるようにして職員全員で共有している。法人研修は、年10回(地域包括ケアと社会福祉協議会、医療と介護の連携、プライバシーについてなど)あり、職員が参加している。内部研修は、管理者や職員が講師を務め、月1回実施(介護保険制度、リスクマネジメント、食中毒、感染症、認知症ケア、救急法、プライバシー確保等)している。新人職員は日々の業務の中で管理者や先輩職員から指導を受けて介護の知識や技術を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修や地域ケア連絡会議、町内の徘徊模擬訓練等に参加し、同業者と交流する機会を持つようになっている。また、他施設を視察させていただきサービスの質を向上させる努力をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、GHに見学に来られた時や入居前面談等で、要望や思いを確認し、安心して生活を送れるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、GHに見学に来られた時や入居前面談等で、要望や不安なこと等しっかり確認して、信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族とよく話し合い、必要に応じて他のサービスの紹介をするよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として、喜怒哀楽を共有し、食事作りや野菜作り等教わりながら、お互いに支え合って生活している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会だけでなく、その他の行事も家族に案内し参加していただき、一緒に時間を過ごしていただくよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店での買い物や外食、美容院、ご家族との外出等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	近所の人や友人、親戚の人の来訪や家族の面会がある他、電話や絵手紙での交流を支援している。馴染みの店での買物や趣味講座(木目込み教室)参加への支援の他、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や外出、買物、一時帰宅、墓参、法事や結婚式への参加等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、居間での座席等を工夫し、利用者同士が関わり合い支え合えるような支援に努めている。入居されたばかりの方の不安感を利用者同士で上手に解決されている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている。サービス終了後もGHへ気軽に来訪されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、アセスメントをしている。日々の関わりの中で、本人の言葉や行動で気づいたことを記録し把握するよう努めている。困難な場合は、職員で話し合い本人本位に検討している。	入居時のセンター方式のシート(生活歴や得意なこと、嗜好等、本人と家族の思いや暮らし方の希望)の活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子、行動などを「介護記録」の「私の願いや支援してほしいこと」の欄に記録して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から情報を得たり、職員間で話し合い、本人本位に検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は、家族に聞き取りをしたりセンター方式の様式に記入してもらっている。また、GH入居前に利用していたサービス事業所にも問い合わせ、なるべくこれまでの生活環境に変わらない対応ができるよう努めている。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子をしっかりと観察し、変化に気づくよう努めるとともにケース記録やバイタル、排泄チェック表などでも心身の状態の把握に努めている。			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や意向を反映し、本人がより良く暮らせるよう職員全員で話し合い、本人の現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に月1回、カンファレンスを行い、本人や家族の思いや意向、主治医の意見を参考にして職員全員で話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは月1回実施し、3ヶ月毎に見直している他、利用者の状態や要望に変化が生じた場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのケース記録に日々の様子や気づきを記入し、ミーティング時やケア会議時に情報の共有をしている。			
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応でき、柔軟な支援に努められるよう職員配置等に工夫している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の女性部主催の「木目込み教室」に参加したり、地域のボランティアの方々との交流を持つなど、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医は決めている。かかりつけ医とは、きちんと相談しながら適切な医療を受けられるようにしている。	利用者や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は月に1回から2回の往診がある。協力医療機関以外のかかりつけ医や他科受診は家族の協力を得て職員が同行して受診支援をしている。歯科は必要に応じて往診がある。結果は電話や面会時に家族に報告している。休日、夜間、緊急時には直接かかりつけ医に連絡し、連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在だが、かかりつけ医にこまめに相談し、指示を仰ぐようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関との連絡を密に行い、利用者が安心して治療やサービスがスムーズに受けられるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会で事業所の方針は伝えている。必要時には、家族や主治医等と話し合っている。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族、主治医、職員等関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有して、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日々の関わりの中での気づきをヒヤリハット報告書に記録し対策を検討し、職員全員で事故防止に取り組んでいる。応急対応や訓練は定期的に消防署の指導の下、行っている。また、初期対応についてはケア会議時等に確認し合っている。	事故等が発生した場合は、ヒヤリハット、事故報告書に発生状況と対応、今後の予防策を記録し、全員に回覧し、ケア会議で再度話し合い、ひとり一人の事故防止に努めている。消防署が主催する救急救命法、AEDの使用方法的研修を職員全員が受講している。急変や事故発生に備えて火傷、咬傷(犬、猫、蜂、蛇、ムカデ等)、悪寒、発熱、鼻血、気道異物除去、骨折についての「初期対応マニュアル」を作成して確認し合っているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員やお泊りボランティアの参加を得ての合同避難訓練や緊急連絡網等で地域との協力体制は築いている。避難訓練は、回数を重ね実践力を身につける努力をしている。	消防署の協力を得て、年2回、昼夜の火災と水害、土砂崩れ、地震を想定した避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方について、運営推進会議メンバーやお泊りボランティア、利用者も参加して実施している。避難時の車椅子の使い方の訓練を実施している。災害時や行方不明時の地域緊急連絡網があり、運営推進会議メンバーやお泊りボランティアを登録しているなど、地域との協力体制を築いている。災害時に備えて水や食料の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修等で学習を重ね、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねないよう、その人に合った言葉かけや対応をしている。	内部研修(プライバシー確保)で学び、職員は、利用者を人生の先輩として人格を尊重し、家族のように親しみを込めた言葉づかいや対応をしている。不適切な場合は管理者や職員間で注意し合っている。個人情報の取り扱いには留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を気軽に伝える雰囲気作りや自己決定できるように、職員は一人ひとりに合わせた工夫をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや思いを大切にしながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や毛染め等、本人の希望に沿ってその人らしい好みのおしゃれができるよう支援に努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さん一人ひとりができることをしていたいいる。(野菜の収穫、食材の調理法を教える、皮むき、下膳、茶碗・お盆を拭く等)メニューも決めず、なるべく希望に沿うよう努力している。	週5回の昼食のみ外部委託の配食を利用し、その他は事業所の畑で取れた野菜や差し入れの野菜や魚を使い、新鮮な食材を購入して事業所で食事づくりをしている。利用者と一緒に献立を立てたり、野菜の収穫、食材の買物、野菜の皮むき、トレイを洗う、トレイを拭く、食器を洗う、食器を拭く、テーブルを拭くなど、できることを利用者と職員が一緒にしている。食欲を高めることができるよう、盛り付けの色彩に配慮し、目で楽しむように工夫している。利用者と職員は同じテーブルを囲み、同じものを食べながら、盛り付けの色彩を話題に会話を弾ませて、食後には自然に懐かしい歌を歌うなど、楽しく食事をしている。桜を見ながら中庭での食事やウッドデッキでのお茶などの戸外食、おやつづくり(ホットケーキ、クレープ)、年2回道の駅での外食、誕生日の手づくりケーキ、季節行事食(おせち料理、恵方巻、節句のちらし寿司、水饅頭、餅つき)など、食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個別に記録しチェックしている。一人ひとりの状態や好みに合わせている。(刻み、トロミ剤の使用等)		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく毎食後の口腔ケアを心がけているが、朝昼はできていないことがある。夕食後は必ず行い、義歯は預かり消毒している。口腔内の観察にも気をつけ、清潔保持に気をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握しサインを見逃さず、声かけや誘導をしトイレでの排泄支援をしている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、ひとり一人に合った言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や麦、牛乳、ヨーグルト等を取るようになっている。日々の生活の中で、散歩や軽い運動、体操ができる時間を持つよう努力している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日午後からだが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、個々に応じた柔軟な対応ができるよう心掛けている。また、入浴剤やゆず湯等で入浴が楽しめる支援をしている。	入浴は毎日、13時30分から15時30分までの間可能で、希望があれば仲の良い利用者と一緒に入浴や、順番、湯加減、入浴剤の利用、季節の工夫としての柚子湯など、ひとり一人の希望に添って対応し、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、順番や職員を代えたり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、シャワーキャリーの利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況やその方のリズムに合わせて、休息支援をしている。寝具の衛生面や空調管理にも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表で確認し、薬の目的や用法、用量について職員が把握している。症状の変化等については、ミーティング時に確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や散歩、パズル、ぬり絵、新聞を読む、日めくり、歌、畑仕事等、気分転換できるよう、また役割が持てるよう、その人の生活歴や好みに合わせて支援している。	テレビやDVDの視聴、雑誌を読む、通販カタログを見る、広告を見る、歌を歌う、貼り絵、切り絵、ぬり絵、絵手紙を書く、テレビ体操、かるた、風船バレー、掃除(モップで拭く、箒で掃く)、ゴミを捨てる、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、手洗い用ハンカチを縫う、雑巾をつくる、花を生ける、日めくり、新聞をたたむ、畑の草取り、水やり、野菜の収穫、猫に餌をやる、献立を立てる、買物、野菜の皮むき、トレイを洗う、トレイを拭く、食器を洗う、食器を拭く、テーブルを拭く、サロン(木目込み教室)参加、散歩、外出、ボランティア(ハーモニカ演奏等)の来訪、タマちゃん喫茶での交流、神社の祭りで神輿や獅子舞の見学など、利用者の喜びや張り合いとなる楽しみごと、活躍できる場面を多くつくり、支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所のスーパーでの買い物、ドライブ等で希望に沿うよう対応している。また、家族の協力を得て、結婚式やや梨狩り、外食等にも出かけられるよう支援している。	周辺の散歩や買物、ウッドデッキでの日向ぼっこ、木目込み教室、季節の花見(桜、つつじ)、ドライブ(角島、道の駅、豊北町一周)、初詣、梨狩り、外食に出かけている他、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や一時帰宅、外食、買物、法事や結婚式への参加等、利用者の希望に添って外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	GHでの預り金の中から、家族に了解を得て、希望に応じて買い物が自由にできるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用できるようにしている。また希望があれば、自分で塗った絵葉書に一言添えて家族に送る支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居間から見える花壇や畑の整美をしている。また、日差しが強い時には、よしずを用いる等して、居心地良く過ごせるよう工夫している。	リビングの大きな窓から見える裏山の木々や室内に活けてある花々に季節を感じることができる。リビングから続くウッドデッキは、日向ぼっこや戸外食を楽しめる場所となっている。台所からは調理の音や匂いがし、談笑の音が聞こえて家庭的な雰囲気がある。室内や廊下には、机や椅子、ソファ、テレビがゆったりと配置しており、室内の一角にある畳コーナーと合わせて、利用者は思い思いの場所でくつろげるようになっている。壁面には活動の写真や利用者の季節の作品を飾り、懐かしい歌を貼り、いつでも歌えるようにしている。温度、湿度、換気に留意して利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	GH内の所々にソファや椅子を配置し、独りになれたり、気の合う利用者同士で過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの物を自宅から持ち込んでいただいたり、写真やぬり絵を飾るなどして、本人が居心地良く落ち着いて過ごせるようにしている。居室内を本人の思いで動けるよう一人ひとりの身体状況に合わせ、居室内の配置を工夫している。	箆箆やソファ、椅子、飾り棚、時計、仏壇、新聞ラック、けん玉、知恵の輪、輪投げ、メモ帳、帽子など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや自作品を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	GH内の壁や戸に、場所や矢印を書いて貼ったり、居室入口に本人の名前や顔写真を貼るなどの工夫をし、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

下関市社協 グループホームしまど

作成日：平成 28年 12月 20日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	定期的な訓練を継続しているが、応急手当や初期対応の実践力が身についていない。	緊急時に的確な判断や対応ができるようにしたい。	① 緊急時対応マニュアルの見直し ② 定期的な訓練の継続と不定期にも訓練や動きの確認をする。	2年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。